主 催
大阪府　大阪府住宅供給公社　公益社団法人 大阪府建築士会

後援
大阪府教育庁　一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会

協賛
一般社団法人 日本建築協会　一般社団法人 大阪府建築士事務所協会
公益社団法人 日本建築家協会近畿支部　一般財団法人 大阪建築防災センター
一般財団法人 日本建築総合試験所　一般社団法人 公共建築協会
公益社団法人 日本建築積算協会関西支部
公益財団法人 建築技術教育普及センター近畿支部

「あすなろ夢建築」大阪府公共建築設計コンクール事務局
大阪府住宅まちづくり部公共建築室計画課
〒559－8555　大阪市住之江区南港北１－14－16
TEL：06－6941－0351（代表）　平成31年３月発行

第 28 回 あすなろ夢建築
大阪府公共建築設計コンクール
入選作品集

テーマ：多様なライフスタイルが実現できる家

大阪府住宅供給公社香里三井 B 団地 22 棟 3 階 105 号室（106 号室）

コンクール概要

このコンクールは、小規模な府有建築物を題材とした実践教育の場を提供することにより、将来の建築技術者の育成を図るとともに、永く府民に愛され親しまれる公共建築づくりを推進することを目的として、大阪府内に所在する建築関連学科のある工業高校や専修学校等に在籍する学生・生徒から提案を募集し、グランプリに選定された作品の提案趣旨を活かして事業化を行うものです。

テーマ

多様なライフスタイルが実現できる家

主な設計条件

〔課　　題〕大阪府住宅供給公社香里三井 B 団地 22 棟
3 階 105 号室（106 号室）
〔所 在 地〕寝屋川市三井が丘 1 丁目 10 番
〔床 面 積〕90 ㎡
〔構造・規模〕鉄筋コンクリート造（ラーメン構造）
5 階建てエレベーターなし

作品受付期間

平成 31 年 1 月 8 日（火）　～　平成 31 年 1 月 15 日（火）

応募状況

[応 募 校 数] 15 校
[応募作品数] 273 点 (うち　第 1 部 65 点、第 2 部 208 点)
[応 募 者 数] 295 人 (うち　第 1 部 65 人、第 2 部 230 人)

第 1 部
大阪市立工芸高等学校
大阪市立都島工業高等学校
大阪府立今宮工科高等学校
岸和田市立産業高等学校
大阪市立都島第二工業高等学校
大阪府立西野田工科高等学校

第 2 部
大阪市立デザイン教育研究所
大阪芸術大学附属大阪美術専門学校
大阪府立北大阪高等職業技術専門校
大阪府立大学工業高等専門学校
中央工学校 OSAKA
大阪建設専門学校
大阪工業技術専門学校
日本理工情報専門学校
修成建設専門学校

応募資格

大阪府内に所在する学校のうち、学校教育法の規定による工業高等学校（工科高等学校）・短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校及び、職業能力開発促進法に基づく高等職業技術専門校の建築関連学科に在籍する学生・生徒であり、個人又は 3 名以下のグループでの応募とした。

募集区分

[第 1 部] 工業高等学校（工科高等学校）に在籍する生徒
[第 2 部] 短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校・高等職業技術専門校に在籍する学生

入選作品と賞

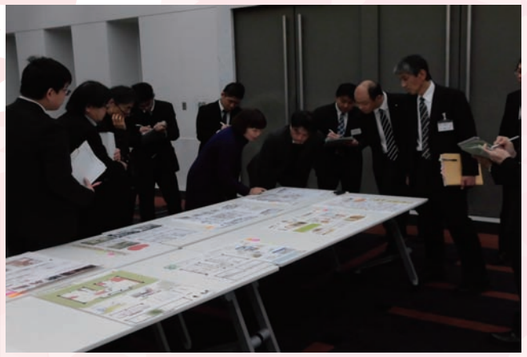
グランプリ 1 点、準グランプリ 1 点、優秀作品賞 2 点、佳作 3 点、奨励賞 3 点の計 10 点を入選作品として選出。ただし、第 1 部と第 2 部からそれぞれ 2 点以上の入選作品を選出することとした。

表彰式・プレゼンテーション

日時：平成 31 年 3 月 27 日（水）
会場：大阪府咲洲庁舎（さきしまコスモタワー）50 階 迎賓会議室

作品展示

場所及び期間
①大阪府咲洲庁舎 (さきしまコスモタワー）2 階エントラスホール
平成 31 年 2 月 13 日（水）～平成 31 年 3 月 4 日（月）
②大阪府本館　1 階ロビー
平成 31 年 3 月 4 日（月）～平成 31 年 3 月 14 日（木）
③ハグミュージアム / 大阪ガス　3 階
平成 31 年 3 月 14 日（木）～平成 31 年 3 月 26 日（火）



審査委員

[審査委員長]
福原　和則
（大阪工業大学
ロボティクス＆デザイン工学部
空間デザイン学科教授）

[審査委員]
下村　泰彦
（大阪府立大学大学院
人間社会システム科学研究科教授）

岩田　章吾
（武庫川女子大学短期大学部生活造形学科教授）

堀部　直子
（株式会社　Horibe Associates）

多田　純治
（大阪府住宅供給公社整備推進部長）

松田　浩三
（大阪府住宅まちづくり部公共建築室長）

総評

本年度も例年同様に多数の応募をいただきました。高校生の部である第 1 部と専修学校生等の部である第 2 部のそれぞれから多数の応募があったことも喜ばしい限りです。本コンクールの価値が定着してきた証であると思います。課題は団地のリノベーションという全く新しいもので、 2 戸分とはいえ限られた躯体の中で、多くの機能を含む住宅を設計することに苦労されたと拝察します。しかしそのような条件の中でも、イメージを豊かにして、魅力的な提案が多く提出されたことを大変うれしく思います。一方で、断面図にインテリアデザインが十分に表現されていない案が散見され、新しい形式に応募者も戸惑いを感じていることが読み取れました。断面図には室内の展開も表現可能で、床レベルや天井の高さなど人体スケールを確認できる表示が可能であると同時にデザインの意図を表現できる場でもあります。来年挑戦する方は、そのような点にも配慮して欲しいと思います。当設計競技は、実施を前提としていますので、コストや管理の面の優劣が審査に大きく影響します。しかしその反面、審査員の先生方は、若い発想による伸びしろのある案を発掘したいと思っています。タイトルのとおり夢のある案を探しています。難しいコンペですが、皆さんの一層の頑張りに期待します。最後になりますが、本紙面を拝借して、入賞された皆様へのお祝いと、このコンクールに作品を提出された皆様、そしてそのご指導に当たられた先生方のご努力に対する御礼を申し上げます。

山下　奈緒美　作品（グランプリ）

この住戸の実現によって、団地自体が活性化することを目指した社会性を含んだ提案であった。交流空間であるウェルカムキッチンとプライベート空間を斜め壁で機能的・視覚的に分離するとともに、その斜め壁でプライベートリビングと玄関からの視線を団地の緑や屋外活動に誘導して、外部との繋がりも演出した点が高く評価された。

助川　仁美　作品（優秀作品賞）

室内の壁を排し、床の高低差とカーテンで空間を区切っている。住まい手の考え方次第で様々な生活スタイルに対応できる。可愛らしいゆるやかなデザインが印象に残る。住まい手の気持ちを考え、細かい使い勝手まで良く検討されている。手書きの作品だが表現力が高く案の意図がよく伝わった。

北仲　紗弓　作品（佳作）

LDK の部分と寝室の部分は各々コンパクトにまとめられ使いやすい。玄関からつながる土間の部分を広めにとり、書斎やその他の仕事空間として多様な使い方ができるように工夫されている。隣接する部屋を主寝室ではなく、子供部屋としたほうが良かったのではないだろうか。

張　展　作品（佳作）

本に囲まれた暮らしという、非常に美しい生活イメージが抜群に美しいプレゼンテーションで表現されている。これだけ本に囲まれていながら寝室に書棚が無いのはなぜだろうか？提案しているライフスタイルが明確だが、対象が限定的である。

橘髙　有生　作品（奨励賞）

日当たりのよい南側を全て畳敷きとした提案。畳中心のリラックスした生活が満喫できる。キッチンや寝室は適切に配置され、収納スペースも多く確保されている。生活のタイムスケジュールを提案するなどプレゼンテーションも優れており、家族の生活や細かい部分への配慮がよく伝わってくる。

新留　杏実　作品（準グランプリ）

家事と子育てに大変な若いお母さんに配慮した計画。キッチンからリビングを経て子供部屋に至る一連の空間がオープンにつながっており、見通しが良く家事もしやすい。プレゼンテーション全体も温かくほのぼのとした雰囲気で、作者の設計意図をよく表している。

柿花　楓恋　作品（優秀作品賞）

間仕切りを極力押さえたプランで空間の広がりを感じられる。シンプルだが決して殺風景ではなく、木の統一感が明るく落ち着いた雰囲気を醸し出している。土間は一見魅力的だが、ベッドの北側の土間はなくして南側のコリドールスペースを広げたほうが良かったのではないだろうか。

高橋　颯希　作品（佳作）

古民家を思わせる縁側を団地で再現したアイデアは斬新でユニーク。団地の課題であるコミュニティー再生への効果も期待できる。ただ空間としては若干狭く、そのような場となりうるかという疑義があった。

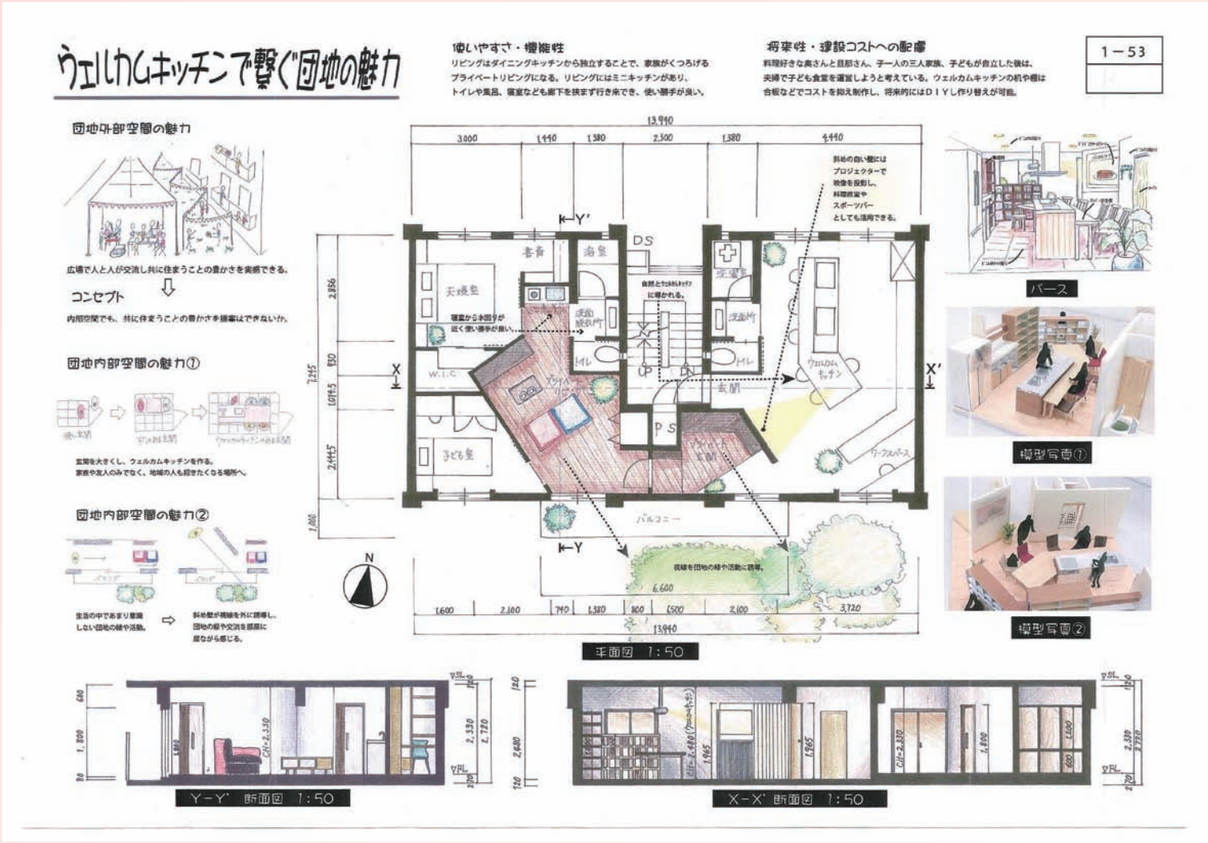
島田　麻鈴　作品（奨励賞）

食事準備中のキッチンから和室で遊ぶ幼児の見守りや、友人を招いて子供を遊ばせながら趣味スペースで楽しむ団欒など、子育て世帯に嬉しいプランが評価できる。

西本　裕哉　作品（奨励賞）

住戸内の動線を考慮して LDK や寝室の配置がなされている。また、各所に収納空間が確保され、ゆとりのある生活空間の実現が可能となっている。廊下に配置した黒板は家族のコミュニケーションボードとしても利用できるなど、細かな点も配慮されている。

グランプリ



グランプリ　山下　奈緒美
大阪市立都島第二工業高等学校　３年
「ウェルカムキッチンで繋ぐ団地の魅力」

【コンセプト】

内部空間でも、共に住まうことの豊かさを提案はできないかと考えた。

【団地外部空間の魅力】

広場で人と人が交流し共に住まうことの豊かさを実感できる。

【団地内部空間の魅力①】

玄関を大きくし、ウェルカムキッチンを作る。家族や友人のみでなく、地域の人も招きたくなる場所へ。

【団地内部空間の魅力②】

生活の中であまり意識しない団地の緑や活動を、斜め壁があることで視線を外に誘導し、団地の緑や交流を部屋に居ながら感じられる。

【使いやすさ・機能性】

リビングはダイニングキッチンから独立することで、家族がくつろげるプライベートリビングになる。

リビングにはミニキッチンがあり、トイレや風呂、寝室なども廊下を挟まず行き来でき、使い勝手が良い。

【将来性・建設コストへの配慮】

料理好きな奥さんと旦那さん、子一人の三人家族、子どもが自立した後は、夫婦で子ども食堂を運営しようと考えている。ウェルカムキッチンの机や棚は合板などでコストを抑え制作し、将来的には DIY し作り替えが可能。

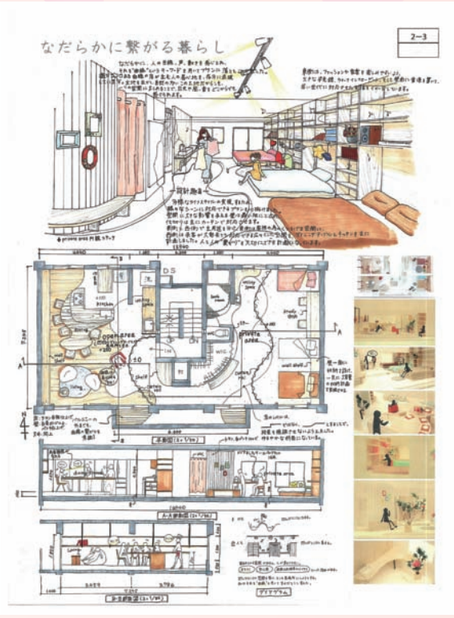
準グランプリ・優秀作品賞

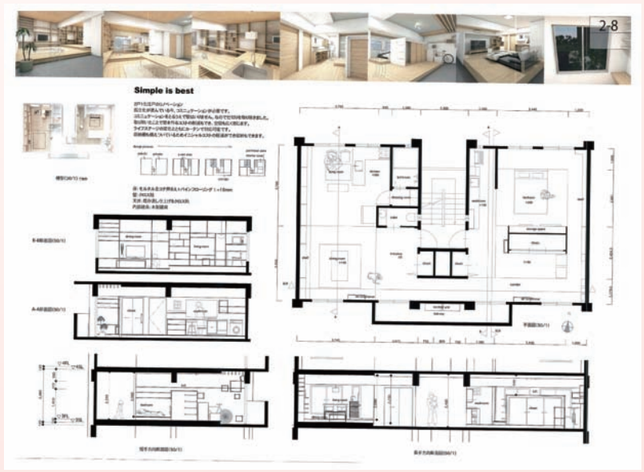
準グランプリ　新留　杏実
中央工学校 OSAKA　２年
「look at - 家事をみせるんだ -」

家族が家事を共有しやすいように考えたプランです。部屋に閉じこもっていたり、背中を向けてくつろいだりしていると知らないうちに家事をしてもらっていて、家事を他人事だと認識されているかもしれません。そんな状態ではお母さんのため息にすら気づかない関係になります。だから家事をしている姿が自然と視線に入るようにして、家事を身近に感じさせます。このプランが円満な家族のきっかけになると思います。（一部抜粋）

優秀作品賞　助川　仁美
大阪工業技術専門学校　２年
「なだらかに繋がる暮らし」

多様なライフスタイルの実現するため、様々なシーンに対応できるプランを心掛けました。空間に大きな影響を与える壁は最小限にとどめ、仕切りは主にカーテンで対応させます。東側と西側で主用途を分け、東側は家族の為のくつろげる空間に、西側は来客が大勢来ても対応できる広々とした空間を、ダイニングテーブルとキッチンを主に計画しました。人と人の繋がりを大切にできる計画になっています。なだらかに、人の目線、声、動きを感じとれ、それを`曲線`というキーワードを用いてプランに落とし込みました。遊びゴコロある曲線の床が住む人の居心地を、存分に表現しています。立地を生かし、自然の多いこの土地だからこそ、一つの空間にまとめることで、日光や風、音をどこからでも感じられます。東側は、ファッションや音楽を楽しみやすいよう、大きな姿見鏡、ウォークインクローゼット、そして壁面に音源を置いて、若い世代に対応させた生活をイメージしています。
（一部抜粋）





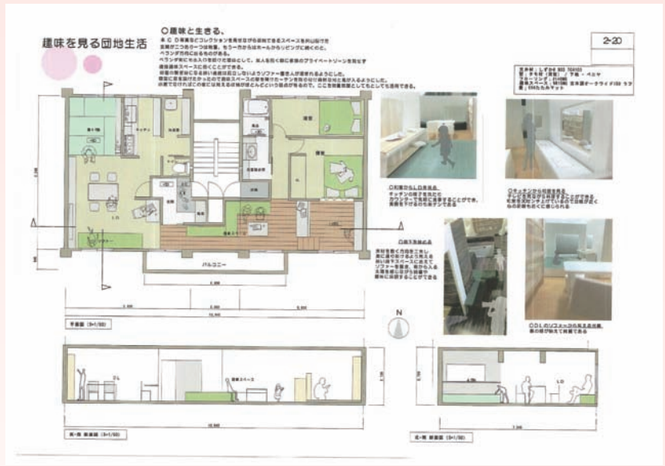
優秀作品賞　柿花　楓恋
大阪工業技術専門学校　２年
「Simple is best」

２戸１化住戸のリノベーション

孤立化が進んでいる今、コミュニケーションが必要です。コミュニケーションをとるうえで壁はいりません。なので仕切りを取り除きました。取り除いたことで壁を作るコストの削減もでき、空間も広く感じます。ライフステージの変化とともにカーテンで対応可能です。収納棚も備えついているためイニシャルコストの軽減ができ収納もできます。

佳作　北仲　紗弓
大阪市立工芸高等学校　２年
「Compatible House」

タイトル通り、この設計趣旨は『Compatible House』つまり、『両立できる家』です。例えば、暮らしと仕事の両立。今回は書斎部分を広く取り、床を土間にすることで、普段は家族でくつろげるスペースになっていますが、仕事や作業をする際には客人を招き、打ち合わせなどができるようになっています。

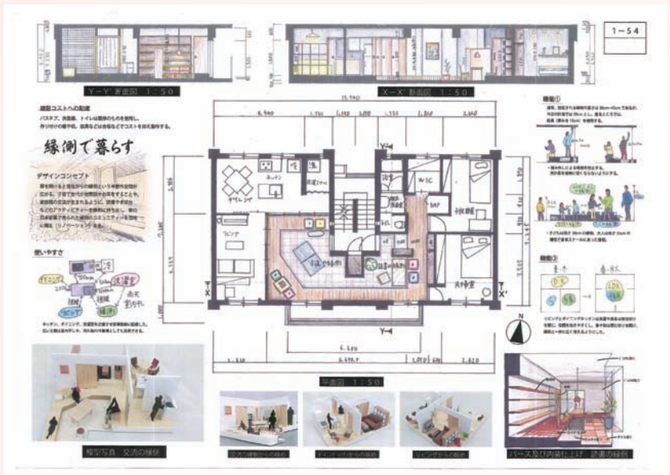


奨励賞　島田　麻鈴
大阪工業技術専門学校　１年
「趣味を見る団地生活」

○趣味と生きる
本、CD、写真などコレクションを見せながら収納できるスペースを沢山設けた。玄関が二つあり一つは物置、もう一方からはホールからリビングに続くのと、ベランダ方向に出るものがある。ベランダ側にも出入口を設けた理由として、友人を招く際に家族のプライベートゾーンを見せず直接趣味スペースに招くことができる。部屋の繋ぎ目になる狭い通路は孤立しないようソファーを置き人が溜まれるようにした。個室に窓を設けたかったので趣味スペースの壁を開けカーテンを取り付け自然な光と風が入るようにした。必要でなければこの家には見える収納がほとんどという弱点が有るので、ここを物置部屋としても活用できる。（一部抜粋）

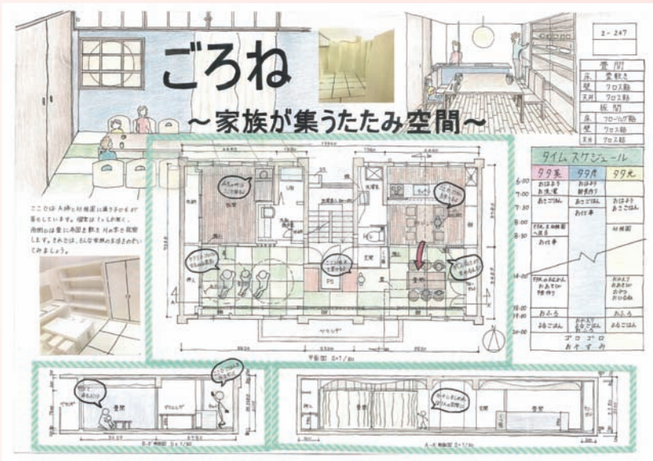
佳作　高橋　颯希
大阪市立都島第二工業高等学校　４年
「縁側で暮らす」

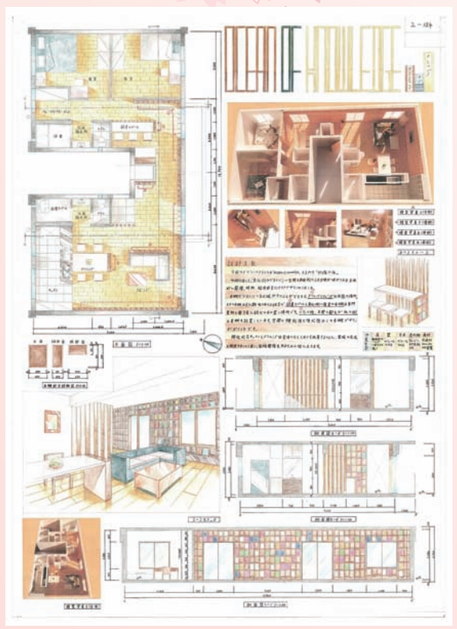
扉を開けると昔ながらの縁側という半野外空間が広がる。子育て世代が世間話やお茶をすることや、家族間の交流が生まれるように、読書や卓球台などのアクティビティーを縁側に持ち出し、昔の日本家屋で見られた縁側のコミュニティーを団地に再生（リノベーション）する。
（一部抜粋）



奨励賞　橘髙　有生
中央工学校 OSAKA　１年
「ごろね　～家族が集うたたみ空間～」

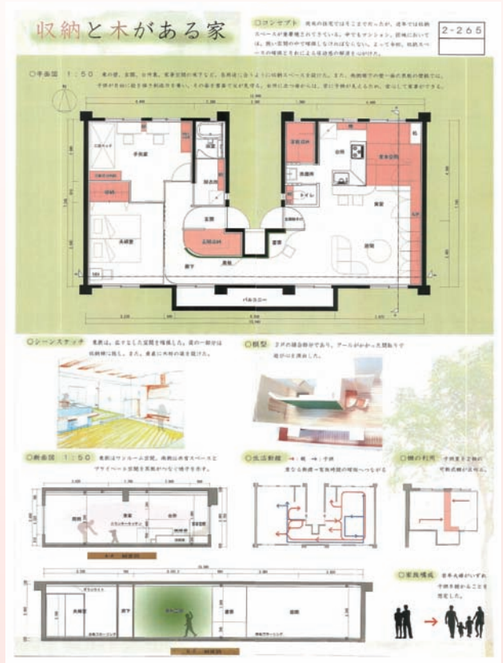
ここでは夫婦と幼稚園に通う子どもが暮らしています。個室は一つしか無く、南側には畳に布団を敷き川の字で就寝します。それでは、そんな家族の生活をのぞいてみましょう。





佳作　張　展
日本理工情報専門学校　２年
「OCEAN OF KNOWLEDGE」

今回のデザインのタイトルは「ocean of knowledge」、すなわち「知識の海」。本棚を通して、東北側のプライバシー空間と西南側の公共空間がつながります。全体的に簡潔、明快、経済的なインテリアデザインにしました。本棚はだいたい３つの区域に分けることができます。ダイニングとリビングは休憩の場所で、そこの本棚は主に趣味の本や小説など、読書スペースと東北側の寝室の本棚は専門書物と寝る前に読む本を置く場所です。ソファの後ろ、玄関の隣及び机の側には書棚を設置しています。空間の機能性と便利性はこの本棚のデザインがポイントです。開放的なキッチンとダイニングは室内の広さと光りを改善する上に、家族の交流も促進することで良い、家族関係を作るために役立ちます。



奨励賞　西本　裕哉
中央工学校 OSAKA　１年
「収納と木がある家」

従来の住宅ではそこまでだったが、近年では収納スペースが重要視されてきている。中でもマンション、団地においては狭い空間の中で確保しなければならない。よって今回、収納スペースの確保とそれによる圧迫感の解消を心がけた。東の壁、玄関、台所裏、家事空間の床下など、各用途に合うように収納スペースを設けた。また、南側廊下の壁一面の黒板の壁紙では、子供が自由に絵を描き創造力を養い、その姿を書斎で父が見守る。台所に立つ母からは、常に子供が見えるため、安心して家事ができる。東側は、広々とした空間を確保した。梁の一部分は収納棚に隠し、また、垂直に木材の梁を設けた。（一部抜粋）